

チベット高原観察旅行

—日程と走行ルート—

立正大学チベット地理調査団

1994年7月、立正大学地理学教室の有志は、中国科学院南京地理・湖沼研究所（南京地理研）との交流計画の一環として、チベット調査旅行を実施した。これは、本交流計画における第4回目の訪中である。

[参加者]

正井泰夫 立正大学（団長）
李 慶忠 立正大学，夫人（蔡 秀栄）同伴
新井 正 立正大学（副団長）
横島康吉 四国大学
内山幸久 立正大学
松井秀郎 立正大学
萩原八郎 四国大学
楊 金華 南京地理湖・沼研究所
余 豊寧 南京地理湖・沼研究所
李 子寧 蘭州高原大気物理研究所（運転担当）
王 小龍 蘭州高原大気物理研究所（運転担当）

[日 程]

7月11日 成田発、JALで上海へ。中国東方航空で西安へ。
7月12日 西安市街観察、兵馬俑坑見学。
7月13日 西安市街観察、半坡村古代遺跡見学。
7月14日 西安発、中国西北航空で蘭州空港へ。空港より半乾燥地形を見つつ蘭州へ。
7月15日 中国科学院蘭州高原大気物理研訪問後、三菱PAJERO 2台に分乗し、西寧経由で青海湖へ。海拔2,500mを越えると油菜の花のカーペットが見られ、日月山付

近からヤクが現われる。青海湖畔泊。

7月16日 青海湖畔のチベット村と鳥島（カモメなどの渡り鳥多し）見学。草原・ゴビ・砂漠景観を見つつ、茶卡経由でゴルムドへ。700km走る。
7月17日 ツァイダム盆地よりゴルムド川の峡谷沿いにクンルン峠へ一気に登る。峠は小雪。これから900km間、海拔4,500m以上の青蔵高原を走る。長江源流近くの沱沱河沿の粗末な宿に泊る。全員、程度の差こそあれ、頭痛等に悩まされる。
7月18日 青蔵高原中央部のタン（グ）ラ山脈越え。タン（グ）ラ峠（5,231m）は本調査旅行中の最高所。峠を越えると草がふえてきてヤクや羊の放牧もふえる。バザールのある街ナクチュ泊。まだ海拔4,500m。
7月19日 ニエンチェンタン（グ）ラ山脈を見ながら羊八井へ。温泉（熱）利用が盛ん。海拔3,600~3,700mのラサへ下る。
7月20日 ラサ市街観察。チベット仏教第一の聖地大昭（チョカン）寺参詣後、チベット大学訪問。地理学関係者と懇談。
7月21日 ラサ市街観察。壮大なポタラ宮見学後、ヤル（ン）ツァンポ川ルートでシガツェへ。海拔3,900m。
7月22日 伝統美を誇り、巡礼の多いタシルンボ寺参詣後、自由市場観察。往路と同じルー

- トでラサへ、チベット訪問記念の夕食会、
- 7月23日 正井のみ成都へ。他はラサ市街や伝統的住居観察。
 - 7月24日 中国南西航空で成都へ。成都市街観察。
 - 7月25日 成都市街・都江堰の観察。
 - 7月26日 中国南西航空で南京へ。南京地理研訪問。
 - 7月27日 列車で上海へ。JALで成田へ。

[走行ルート]

蘭州からラサ・シガツェへは、中国科学院蘭州高原大気物理研の三菱 PAJERO 2 台に分乗して向かった。実に、3,000 km にも及ぶ踏破旅行である。3,000 km のうち 2,500 km は海拔 3,000 m 以上で、4,000 m 以上の所は 900 km を越していた。そのほとんどは実に 4,500 m 以上の青蔵公路であった。一部は改修中の凸凹道であったが、大部分は舗装または手入れのよい砂利道であった。

ルート上の最高点はタン(グ)ラ峠 (唐古拉山口)

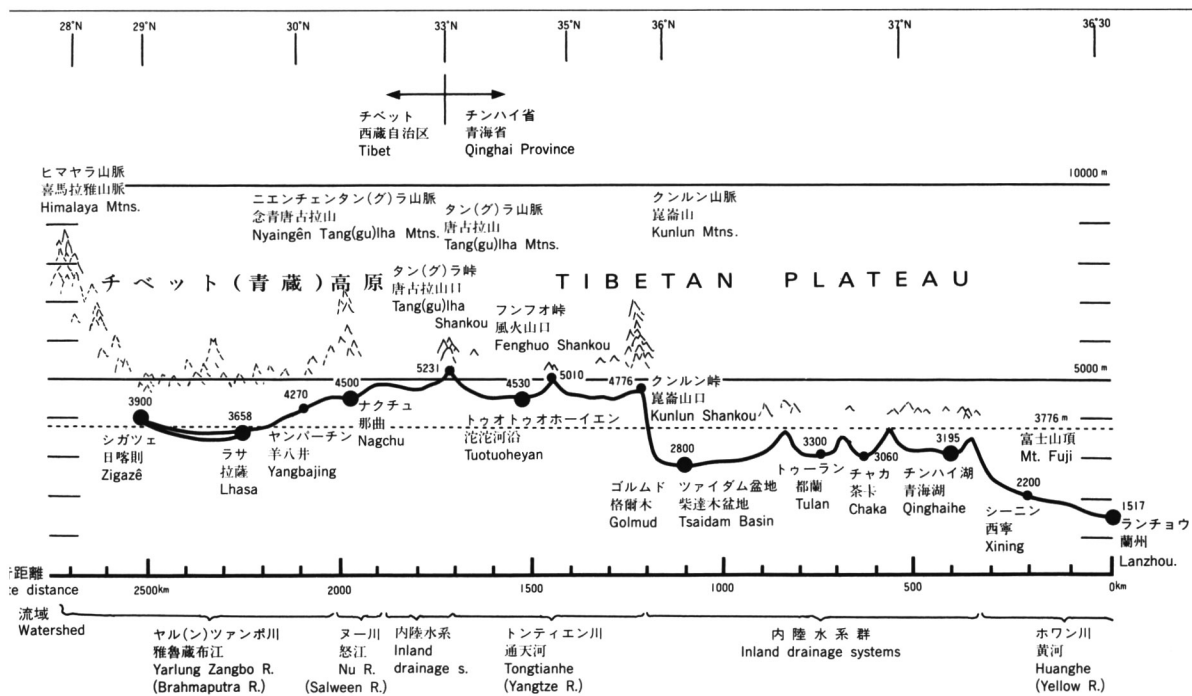
の 5,231 m であったが、その手前の風火峠も 5,010 m に達していた。小雪の舞ったクンルン峠は 4,776 m であった。緯度的には北緯 37° と 29° の間の走行であり、地形および夏のモンスーンの現われ方によって、植生や居住・農牧業・都市形態に大きな地域差が見られた。

[謝辞]

調査団一行は、起こりうる高山病その他の障害に対して真剣に考慮しなければならなかった。そのため、酸素吸入器も用意してもらった。運転担当の 2 名を除き、他のすべての人は 4,000 m 以上の高地経験をもたなかったが、全員無事に住地に戻った。この貴重な体験と知識を得られたことは、ひとえに南京地理研の諸先生、特に同行していただいた楊金華・余豊寧両氏の周到な準備のおかげである。また李子寧、王小龍両氏の卓抜な運転とガイドも忘れられない。日本側参加者一同、深く感謝する次第である。

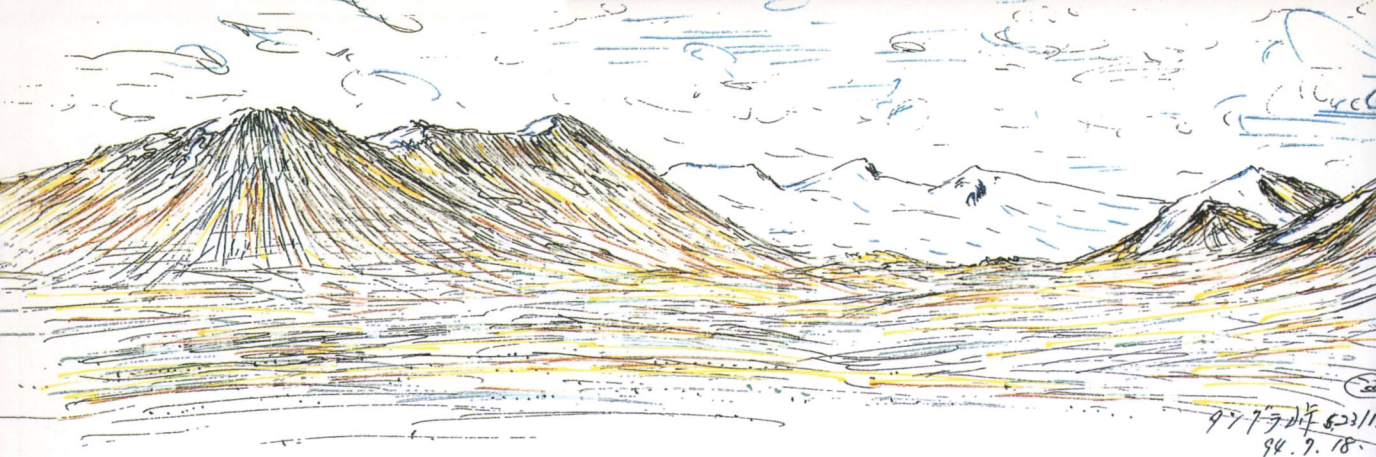
(1994 年 12 月 12 日 受付)

(1994 年 12 月 24 日 受理)



1994 年 7 月のチベット高原横断調査 走行ルートと海拔高度 (大きい黒点は宿泊地)

Traverse Route and Its Altitudes of the 1994 Tibet Survey Trip



9777山 623/11
94.7.78

▲唐古拉(タングラ)峠より唐古拉山脈を望む



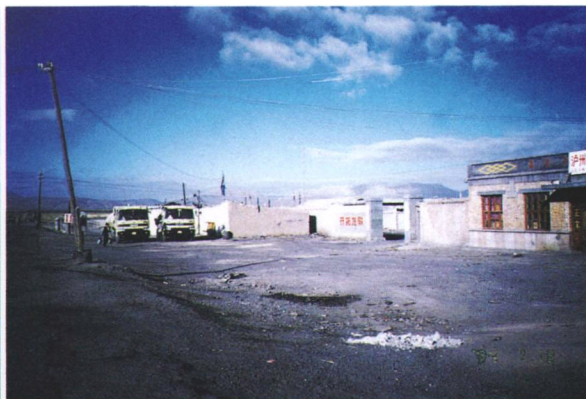
▲唐古拉峠(5,231 m)



▲唐古拉山脈



▲崑崙[クンルン]山脈(青藏高原から)



▲沱沱河沿[トゥオトゥオホーイエン](長江源流の宿泊地)



▲長江源頭第一橋



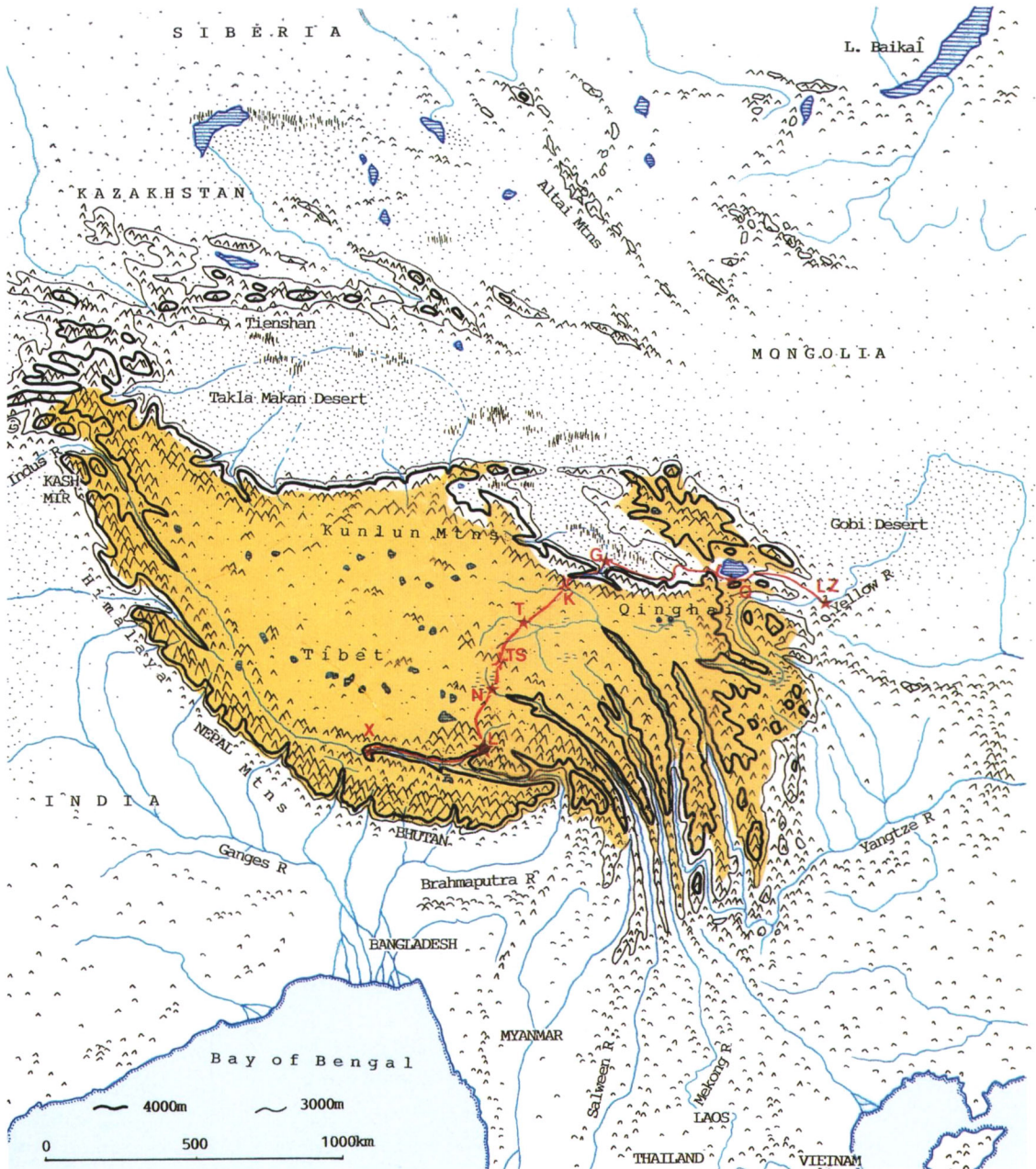
▲チベット[チンツェン]高原を行く人



A：長江源流布曲(ブーチュ)(上流タングラ山方向を望む)



B：羊八井(ヤンパーチン)の地熱発電所



第1図 チベット高原の高度とチベット族の分布および走行ルート

LZ(蘭州)、Q(青海湖)、G(ゴルムド)、K(クンルン峠)、T(沱沱河沿)、TS(タングラ峠)、N(ナクチュ)、L(ラサ)、X(シガツェ)

黄土色の範囲がチベット族の分布範囲、『青藏高原地図集』により正井泰夫作成